

人工知能学会若手の集い MYCOM2008開催報告

Report on MYCOM2008(Meeting for Youth COMmunity)of JSAI

畦地 真太郎

AZECHI Shintaro

経営学科

az@alice.asahi-u.ac.jp

要 旨

人工知能学会の研究会である第9回人工知能学会若手の集いMYCOM2008が、朝日大学経営学会の共催により、2008年6月5～6日に行われた。参加人数30名、研究発表22名、招待講演1件という盛況の中、人工知能分野における活発な研究発表と討議が行われた。

キーワード：研究会開催報告、人工知能学会、MYCOM

1. 概要と開催プログラム

人工知能学会若手の集いMYCOM (Meeting for Youth COMmunity) は、人工知能学会が開催する、若手研究者を中心とした研究会である。2008年度で9回の開催を数え、各年とも研究発表と議論が為されることにより、人工知能関係若手研究者の情報交換と成果の創出に役立っている。本研究会は、確固とした研究成果を発表するというよりは、若手研究者が研究の端緒についての議論をしたり、将来性や社会への応用・貢献などについての示唆を得る場となっていることを特徴としている。また、合宿形式により、夜を徹しての議論を行うことが特色である。

2008年度の第9回研究会が岐阜市内で開催されることになり、朝日大学経営学会との共催を呼びかけ、開催補助金の交付を受けた。

研究会(実行委員長：中山功一(NICT/ATR))は、2008年6月5～6日に、岐阜市内の宿泊施設「旅館：多賀」で行われた。参加人数30名、研究発表者22名、招待講演が1件という盛況の中で開催し、成果を得ることができた。

2. 研究会報告

2-1. 第1日目(2008年6月5日)

研究発表セッション1、セッション2、招待講演とナイトセッションが行われた。

① セッション1「学習・発想支援」(座長：佐藤竜也(名古屋大学))

本セッションでは4件の研究発表が行われた。主に大量の情報から、どのように意味のある知識が得られるのかについて、計算機的手法だけではなく、メタな視点からも活発な討議が行われた。

② セッション2「表現活動・創発」(座長：山口広樹(東京大学))

本セッションでは4件の研究発表が行われた。Web上での新たなコンテンツ表示システムや、人とインタラクションするセルオートマトンなど、テーマに沿った多様な発表と議論が行われた。

③ 招待講演「常識に洗脳された研究者の末路」(柴田有三(NPO法人KGC))

招待講演は、NPO法人KGC理事長の柴田有三氏を招き、研究を続けていくために必要不可欠な資金獲得と研究テーマの関連について、研究者が陥りがちな硬直した常識についての講演が行われた。特に、研究成果を必要としている実社会と、

それに対応できない研究者側の齟齬を示し、コラボレーションを円滑に行うことにより研究成果を社会に役立てていこうというNPO法人の働きについて述べられた。若手研究者にとって、今後の研究活動の指針となるべく講演内容であり、活発な質疑応答が行われた。

④ ナイトセッション「人工知能科学館を造ろう」
(コーディネータ：畦地真太郎 (朝日大学))

ナイトセッションは、研究会参加者が7-8名のグループに分かれ、テーマに沿った議論を行い、成果を2日目の「ナイトセッション総括」で行うという企画である。本年度は、若手研究者が人工知能研究の成果を社会にアピールする方法を考える機会を設けるために、架空の「人工知能科学館」を造るためには、どのような展示内容と研究が必要であるかを議論した。4グループに分かれた参加者は、“中締め”となった23時30分以降も議論を続け、各グループの成果を詰めていった。

2-2. 第2日目 (2008年6月6日)

研究発表セッション3、セッション4、セッション5とナイトセッション総括が行われた。

① セッション3「エージェント」(座長：伊藤冬子 (同志社大学))

本セッションでは4件の研究発表が行われた。近年の人工知能分野で活発に研究されているエージェント技術について、最先端の研究への取り組みが発表され、議論された。

② セッション4「進化的手法」(座長：飯尾尊優 (同志社大学))

本セッションでは4件の研究発表が行われた。問題解決・最適化手法として脚光を浴びている進化的手法について、主に超臨場感や商品推薦への適用という応用分野に関しての発表が行われ、討議が為された。

③ セッション5「コミュニケーションと集合知」(座長：郷原浩之 (東京大学))

本セッションでは5件の研究発表が行われた。機械対人の、あるいは機械に支援された人同士のコミュニケーションと、それによって生じる知的

活動・成果について、情報工学的な側面のみならず、社会科学・哲学分野にもまたがる研究発表と討議が行われた。

④ ナイトセッション総括 (コーディネータ：畦地真太郎 (朝日大学))

前夜行われた「ナイトセッション」における議論をふまえ、各グループの成果が発表された。参加者は、互いの成果をふまえながら、人工知能研究の歴史・社会的な立場と意義、社会に対してどのようにアピールするべきなのか、今後どのようにあるべきなのかについての議論を行った。

3. 成果

本年度は、＜優秀プレゼンテーション賞＞として吉本英樹氏 (東京大学)「UAV Computingの提案 -空をフィールドとした表現の活性をめざして-」を、＜優秀ディスカッション賞＞として飯尾尊優氏 (同志社大学)「情報という視点から生命の本質へ」の、それぞれ1名を選出することができた。情報工学分野のみならず、社会科学分野からの議論、および「社会に対する人工知能研究の貢献」を若手研究者が議論することにより、朝日大学経営学会の目的である「経営学・情報管理学及びこれらに関連する学術研究の促進及びその普及」が、部分的に達成できたと考えられる。

4. 謝辞

以上のように、第9回人工知能学会若手の集い MYCOM2008は、朝日大学経営学会の研究会開催補助金交付により、非常に有意義な成果を収めることができた。ここに、経営学会各位に対し、心からの謝意を表する。

＜参考資料＞

当研究会の活動報告については、「第9回AI若手の集い報告」(西原陽子、人工知能学会誌、23, 5, 699-701, 2008) に、プログラムと予稿集は「MYCOM2008 (AI若手の集い) (<http://mycom.alife.es.is.nagoya-u.ac.jp/2008/>) に掲載されている。興味のある方は、是非ご参照いただきたい。